

かごしま教員育成指標（教諭等）

鹿児島の教員としての素養	人間性・社会性	豊かな人間性と広い視野をもって、他者との信頼関係を築き、多様な発想のもとに鹿児島の未来を担う児童生徒と深く関わる力。				
	職責感・使命感	教育に携わる者としての崇高な使命感を自覚するとともに、教育公務員としての職責感・倫理観をもって職務を遂行する力。				
	探究心・自己研鑽	常に謙虚な姿勢で自己研鑽に努め、教員として必要な資質や教科の専門性を個及びチームとして主体的に高める力。				
	教育に対する情熱	鹿児島の教育的な伝統や歴史を生かし、児童生徒のよりよい未来の実現に向けて、人権教育を基盤とした教育にかける信念や愛情と豊かなコミュニケーション能力をもって児童生徒へ働きかける力。				
ステージ		養成期	I・初任期	II・発展期	III・充実期	IV・円熟期
求められる資質		採用前	1～5年経験相当	6～10年経験相当	11～20年経験相当	21年経験相当～
A 学習指導力	学習指導の構想・実施 ①	学習指導要領目標等における内容等理解している。	学習指導要領に基づき、適切な指導計画を構想できる。	自校の教育目標に基づき適切な指導計画を作成できる。	自校や地域の実態を踏まえた指導計画の改善ができる。	実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントの構想ができる。
	学習指導の展開 ②	学習指導に必要技術を身に付けている。	基礎的技術を生かした学習指導ができる。	児童生徒の実態に応じた学習指導ができる。	実態に応じた学習指導の助言ができる。	実態に応じた学習指導の助言ができる。
	学習指導の評価・改善 ③	評価の考え方や基礎理論を理解している。	児童生徒の実態に応じた評価を生かした指導ができる。	児童生徒の評価に基づき授業改善ができる。	児童生徒の実態に応じた評価の工夫ができる。	自校の実態に基づき評価計画の改善ができる。
B 生徒指導力	児童生徒の理解 ①	生徒指導の意義や原理を理解している。	児童生徒一人一人と向き合い、環境を理解できる。	一人一人の環境を理解し、個に応じた関わりができる。	児童生徒の状況の関係職員間での理解を促進できる。	児童生徒の体制で理解・促進を図ることができる。
	児童生徒への指導 ②	生徒指導に必要な技法等理解している。	生徒指導に係る技法を用いた指導ができる。	保護者や校内組織と連携し、個に応じた指導ができる。	関係機関とも連携した指導ができる。	学校全体が連携した生徒指導を推進できる。
C 連携協働力	校務の遂行・運営 ①	組織的に諸課題に対応する理解している。	校務分掌の自らの役割を理解できる。	組織運営や教科経営等について、他の職員と連携して推進できる。	組織運営や教科経営等を推進し、同僚への助言ができる。	組織運営や教科経営等を推進し、同僚への指導・助言ができる。
	同僚性と自らの成長 ②	教員に求められる役割や資質能力を理解している。	組織の一員としての自覚をもち、他の職員と協働できる。	他の職員と課題を共有する環境をつくりがける。	課題を共有する同僚への支援ができる。	同僚への支援をのり、自ら向上を図ることができる。
	安全管理・危機管理 ③	危機管理を含めた学校安全の必要性を理解している。	安全に配慮した環境整備と危機時の迅速な連絡ができる。	危機の未然防止の取組や危機時の迅速な連絡ができる。	危機の未然防止の取組や危機時の早期発見・対応の取組ができる。	危機の未然防止の取組や危機時の早期発見・対応の取組を学校全体で推進できる。
	保護者・地域等との連携 ④	連携・協働による学校教育の意義を理解している。	保護者・地域と積極的に関わり、連携できる。	保護者・地域と積極的に関わり、適切な対応ができる。	保護者・地域・関係機関等との連携を深め、適切な対応ができる。	保護者・地域・関係機関等との連携・協働体制を確立できる。
D 課題対応力	特別支援教育の推進 ①	障害の特性や支援の方法、必要性等理解している。	特別支援教育に関する基本的な知識を活用できる。	特別支援教育の基本的な知識を基に、個に応じた指導ができる。	特別支援教育の専門的な知識を基に、個に応じた指導ができる。	特別支援教育を他の職員と連携して推進できる。
	情報管理とICT活用 ②	情報機器の基礎的活用と情報管理について理解している。	授業や校務に情報機器を活用し、適切に情報管理できる。	情報機器の有効活用を図り、適切な情報管理の工夫ができる。	情報機器の活用や情報管理を全校体制で推進できる。	情報機器の活用や情報管理を全校体制で推進できる。
	複式・少人数指導の充実 ③	教育方法の基礎的理論を理解している。	複式・少人数指導を理解し、個に応じた指導ができる。	少人数指導のよさを生かし、個別指導や複式学級での指導ができる。	複式・少人数指導について、同僚への助言ができる。	複式・少人数指導について、同僚への指導・助言ができる。
	新たな課題への対応 ④	学校教育に係る今日的課題について理解している。	自校の喫緊の課題について理解し、解決に取り組むことができる。	自校の喫緊の課題について、同僚と協力して取り組むことができる。	自校の新たな課題について検討し、解決策を構想できる。	新たな課題の解決に向け、同僚や外部専門家と協力して取り組むことができる。